

文化博物館だよりNo.69

みなさん、こんにちは。

寒さが急に戻ってきたり、暖かくなってきたりと日替わりの天気ですが、空気の匂いには確実に春の気配が感じられますね。

1. タンポポをよく見よう in 明石

3月26日(土)13:30から明石公園で「タンポポをよく見よう in 明石」を実施しました。これは、「タンポポ調査・近畿2005」によるもので、近畿2府5県で市民参加の分布調査を行い、在来タンポポと外来タンポポの分布から自然環境を調べ、身近な自然にも触れてみようという試みです。

当日は「人と自然の博物館」から鈴木武研究員を迎え、在来のカンサイタンポポと外来のセイヨウタンポポの見分け方など、タンポポについての予備知識を教えてください、その後、参加者全員で薬研堀から明石公園を通り、剛の池周辺のタンポポを調べて回りました。鈴木先生のユニークな語り口で、参加した子どもたちもすっかりリラックスし、どんどん質問が飛び出してきました。

持ってきたタンポポを先生に見せて、「これは?」、先生が「ええの持ってきたなー。」というやり取りが続き、小さな理科教室の雰囲気でした。

ノゲシやボタンなど、タンポポと間違いやすいものもたくさんあることがわかりました。植物や虫など、自然大好きの子どもたちを大切に育ていきたいですね。



会議室でまずは説明
いそうです。



外来(セイヨウタンポポ)



在来(シロバナタンポポ)これは珍し

外来のセイヨウタンポポばかりかと思っていた参加者も、剛の池周辺では意外と在来のカンサイタンポポをたくさん発見し、子どもも大人もしっかりと観察ができました。

タンポポの花の色の違い、綿毛を飛ばすまでのタンポポの成長過程などもしっかりと学習し、参加された方々も「なるほどー」と、納得です。



これは?



根っこも見せてもらいました。



調べたことを用紙に記入中

一株でも増えていくセイヨウタンポポに比べ、在来の日本のタンポポは二株以上で、しかも花粉を運ぶ虫が必要ということで、カンサイタンポポなどの在来タンポポがあるところは、昔ながらの自然環境が残っているということです。タンポポ調査は5月31日まで、調査用紙は博物館にあります。来週あたりはもっともっと咲きそうです。みなさんも身近な自然に目を向けてみませんか?

明石公園で桜のつぼみを見つけた女の子が、「すごいパンパンにふくらんでー。」とみんなに言っていました。もうじき桜も咲きそうですよ。

明石市立文化博物館
編集: 永田浩史